

1 はじめに

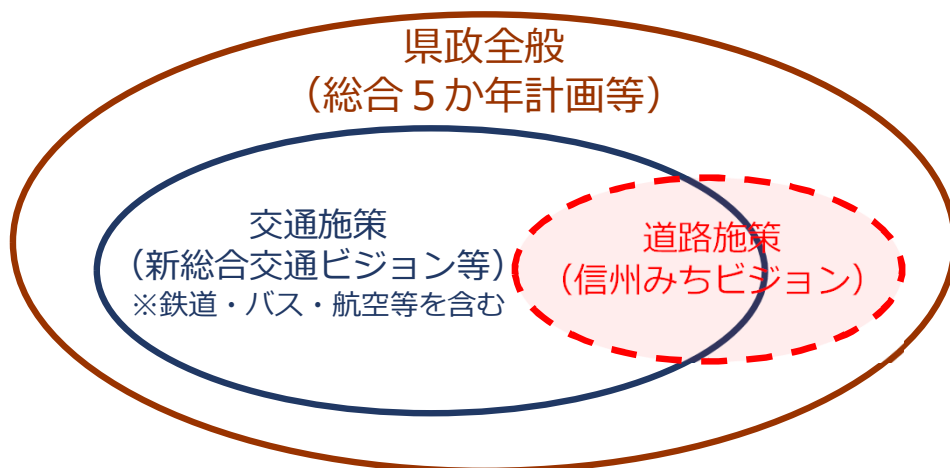
◆改定の背景と目的

長野県では、道路の整備・活用などについて10年間（2018年度～2027年度）の方向性を示す「信州みちビジョン」を2018年3月に策定しました。

策定から5年間において、自然災害の激甚化・頻発化や脱炭素社会の取組み、急速なIT技術の進展など、社会情勢は大きく変化しています。これに伴い、道路事業を取り巻く新しい課題が発生し、道路施策や活用の在り方にも新たな取組みが見られるようになりました。

このことから、計画期間の中間年をむかえ、本ビジョンの目標達成状況を確認し、中間評価を行うとともに、現状の課題や対策の見直しを踏まえて、本県の今後の道路事業の方向性を改めて県民の皆さまに示すことを目的とします。

- 本ビジョンの位置付け



- 本ビジョンの期間

期間	2018年		2027年
	2013～2017年	2018～2022年	2023～2027年
総合5か年計画	▶	▶	▶
新総合交通ビジョン	▶		
信州みちビジョン		▶	▶

今回改定

◆信州みちビジョンのめざす姿

県では2035年の長野県の将来像を展望し、これを実現するための今後5年間の行動計画として、長野県総合5か年計画「しあわせ信州創造プラン3.0」を策定しました。

その中で掲げられた長野県の将来像から、道路分野に関わる内容を整理し、本ビジョンのめざす姿として共有します。

長野県総合5か年計画 しあわせ信州創造プラン3.0

基本目標

確かな暮らしを守り、信州からゆたかな社会を創る



道路分野に関する施策とめざす姿

1 持続可能で安定した暮らしを守る

○持続可能な脱炭素社会の創出

・2050ゼロカーボンの達成に向けて、徹底的な省エネルギーの推進と再生可能エネルギーの普及拡大の取組により、温室効果ガス排出量の削減が着実に進んでいます。

○災害に強い県づくりの推進

・過去の災害の教訓を踏まえたインフラ整備の推進や地域防災力の強化により、激甚化・頻発化する自然災害から、県民の生命と財産が守られています。

○社会的なインフラの維持・発展

・施設の統廃合や共有、管理の共同化などにより、持続可能なインフラ管理体制が構築され、人口減少下においても県民の安全・安心な生活が維持されています。

○県民生活の安全確保

・社会情勢の変化に伴い複雑化・多様化する犯罪や、交通事故、食品・医薬品等の安全など、日々の生活に影響を及ぼす様々なリスクが最小化され、県民の安全・安心な生活が維持されています。

2 快適でゆとりのある社会生活を創造する

○地域の特徴と自然の恵みを生かした快適で魅力ある空間づくりの推進

・自然とのふれあいや森林の多面的な利活用、農ある暮らし[※]、都市緑化などにより、県民が快適でうおいのある暮らしを送っています。

○本州中央部広域交流圏[※]の形成

・高速交通網等が整備され、地域間交流や観光の促進、県内産業の更なる発展につながっています。

○世界水準の山岳高原観光地づくりの推進

・コロナ禍で停滞した観光交流が回復し、観光産業の活性化や地域課題の解決が図られ、暮らす人も訪れる人も長野県を楽しんでいます。